

【課題3】

帰国・外国人児童生徒等への支援を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

①児童生徒・学校の実態

・本校校区内にある団地に、外国籍の児童がいる家庭が多く、毎年、複数名の外国人児童が在籍している。また、留学生家族もいるため、短期滞在の転出入も少なくない。

・日本語や日本の習慣がまだよくわからない児童もいる。また、宗教による生活習慣の違いも多く、同学年の児童の中で心身ともに健やかに過ごすためには、異文化理解について、外国籍児童のサポートももちろんだが、日本籍児童へのサポートが必要な場面もある。

・毎年外国籍児童が在籍しており、外国人慣れしている児童が多い。

・家庭での日本語サポートがなく、日本語の習熟に時間のかかかかる児童もいる。

・令和5年度(モンゴル籍、中国籍)

・令和6年度(モンゴル籍、中国籍、インドネシア籍、バングラディッシュ籍、エジプト籍児童が入学の予定)

②ねらい(目標)

・在籍児童が日本の生活に慣れることとあわせて、人間関係を築くコミュニケーションを支える「話す・聞く」技能を学校生活で身に付け、学校が安心して過ごせる場所になるようにする。

③活動内容

	学年	1学期	2学期	3学期
A・B	1年生	サバイバル日本語プログラム 遊び・ゲーム	日本語基礎プログラム 学級での学習サポート	日本語基礎プログラム 学級での学習サポート
C・D	3・5年生兄弟	サバイバル日本語プログラム 遊び・ゲーム	日本語基礎プログラム 学級での学習サポート	帰国
E	4年生	日本語基礎プログラム 遊び・ゲーム	取り出し学習補修	取り出し学習補修
F	6年生	日本語基礎プログラム 遊び・ゲーム	日本語基礎プログラム 学級での学習サポート 取り出し学習補修	学級での学習サポート 取り出し学習補修

※日本語習得の程度に合わせ友達ともできそうな遊びやゲームをし、ルールに慣れさせコミュニケーションルールの一つに。

【課題3】

帰国・外国人児童生徒等への支援を窓口人間尊重の意識を高める研究の推進

④成果

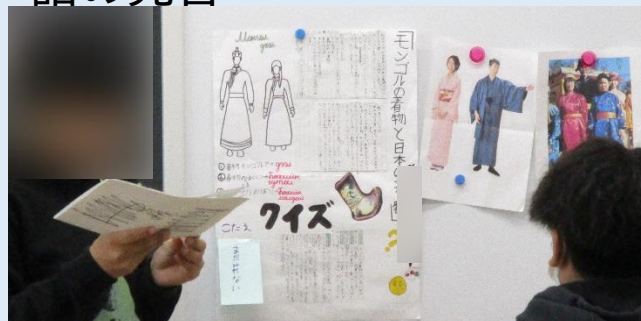
在籍学級の学習の中での支援
(6年生国語「日本文化の紹介」)

-調べ学習と発表-

- ・友達との会話から日本語を学ぶ
- ・自国の言葉や文化との比較・紹介
- ・学級で認められる個人のよさ、個性の発揮 (イラスト、母国語で発音、クイズなど)

-指導事項-

- ・文意説明、適した日本語表記、日本語の発音



⑤課題

他国籍の児童に対応できる教室環境の準備

- ・ほっとする環境を作るための工夫
～出身国の写真や挨拶、文字、言葉を指導者が知り、カードにし、準備しておく

- ・風習、宗教上の配慮事項を知る
～周りの人たちに必要な説明をし、多様な文化があることを理解できるように学習や活動を工夫していく

- ・翻訳機・翻訳ソフトの有効性
～本当に伝えたいことに訳されているのか検討

- ・実践のストック、教材の充実

- ・中学校への引継ぎ

⑥今後の取組の方向性

学校へ来て、「人と話をしたり、活動や学習をするのが楽しいな。」と思えるよう、ほっとする居場所になるよう今後も関わっていきたい。

また、児童のアイデンティティを大切にするために

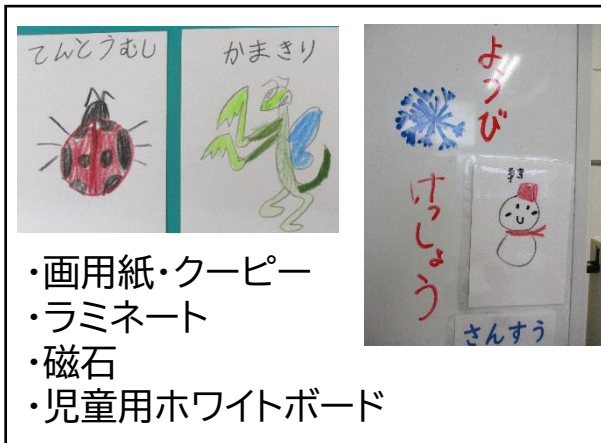
- ①文化や言語の尊重
～出身国の文化や言語を尊重して、学習の中で触れる。
- ②困り感を捉え、解決の糸口を
～文化の違いであったり、日本語の能力であったり。伝えたいことを伝えられるようサポートする。
- ③生活集団・学習集団への参加を支える
以上のことを、大切にしながら指導にあたっていく。

【課題3】

帰国・外国人児童生徒等への支援を窓口人間尊重の意識を高める研究の推進

⑦参考資料

～ほっとしたり、日本語学習を通じて人とつながる楽しさを感じたりできるように～



児童の得意なことを生かし 楽しみながらカードの作成

- ・書く…ひらがな練習
 - ・話す・聞く…依頼の会話
- 自分のお気に入り
→学習での活用
→教室環境の一部に

ほっとする空間を

カード(文字・絵・言葉)はラ ミネート&複数枚に！

- ・日本語教材や著作権フリーのイラストも使用
- ・何度も繰り返して使うことができる
- ・神経衰弱等のゲームで言葉を復唱して

市販のゲームも利用して

- ・聞いて、話して、話して、聞いて
- ・カードで楽しみながら日本の言葉や漢字の習得を

行事や学習の写真を使用して

- ・頑張ったことや、楽しかったことを伝えられるように
 - ・身ぶり、ChromeBook、イラストなど多様な表現で
 - ・聞きとる、共感する人との時間をたっぷり作る
- 学級での作文指導の補助へ

人とつながる楽しさを